

入試現代文の基礎

これから、現代文の講義を始める。この講義を受けているということは、国語が苦手、勉強の方法がわからないという人である。数学の勉強方法は分かるのに、どうして国語の勉強法は分からないのだろうか。それは、一つ目に母語であるがゆえに論理的に手順を踏んで考えずに済む（実はそう錯覚しているだけ）ということ、二つ目に問題の中に「筆者」と「出題者」が登場するところから原因があると言える。前者に関しては「ああ確かに」と思う人も多いだろう。では、後者についてはどうか。現代文という科目と、数学という科目で考えるとわかりやすい。

現代文：筆者の主張を読み取り、出題者の質問に答える。

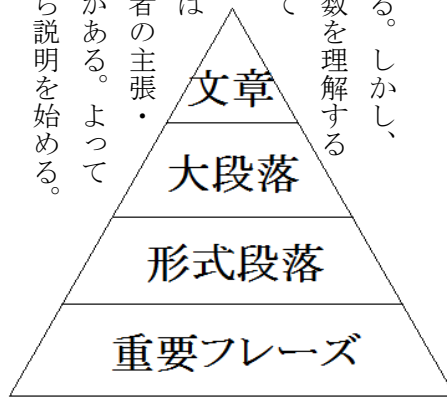
数学：出題者の作った問題文を読み取り、出題者の質問に答える。

現代文は数学と違い、「筆者」が登場する。したがって、筆者の主張を読み取る「読解」と、質問に答える「解答」を区別することができる。数学では出題者が、後の質問を意図して問題文を作っているのだから区別する必要はない。そこで、この講座では「読解」と「解答」の方法について解説する。まずは、それぞれの概要と講義の進め方について説明する。ただし、文章を選んでいのが出題者である以上、文章にも出題者の意図が介入していることは忘れないでほしい。

読解

読解の最終的な目標は、与えられた文章を理解することである。しかし、いきなり文章全体を理解しようというのも無理がある。二次関数を理解するために因数分解が必要なように読解にも段階がある。下図を見てほしい。文章全体を把握するためには、文章を起承転結などに分ける大段落を把握せねばならず、大段落を把握するためには形式段落を把握せねばならず、形式段落を把握するためには筆者の主張・文章の核となる部分が表れている重要フレーズを理解する必要がある。よって

本講座では、読解ピラミッドの下部である「重要フレーズ」から説明を始める。



解答

解答の段階で最も躓く要因となっているのが手順を踏まないことである。特に選択式の問題であればいちいち手順を踏まずとも解答までたどり着けそうである。しかし、実際それでは点数は安定しない。数学でも二次関数の問題を解くときに「平方完成して、グラフを書いて…」などと、ある一定の手順を踏んで解いているだろう。一定の手順を踏むことで自分が確実に解答を進めていることがわかるし、間違いにも気づくことができる。国語においても同様である。国語における大まかな手順は次の通り。

1 問題パターンを把握する。 2 解答の方針を立てる。 3 解答を作成、錬成する。

よって本講座では、これらの手順について解説していく。

それでは、これから合格まで一緒に戦っていこう。

読解1 重要フレーズ

重要フレーズとは筆者の主張が表現として表れている部分、解答の根拠となりやすい部分のことである。筆者の主張を読み取ること、さらには正しい解答ができることを最終目標とするからには理解しておかなければならない。次に紹介する重要フレーズには読む際に傍線を引きながら読んで行こう。

(一)定義文

「○○は××である。」「○○とは、△。」「○○は××と呼ばれている」など、ある事柄を定義している文のことである。数学でも証明の際、「△は△より大きいものとする。」など定義される場合がある。これは今後、この定義に従って証明をしていくということ、主張の絶対的な根拠となる。また、定義された単語は後に「キーワード」として登場することが多い。定義された単語は□で囲んでおこう。

(二)重要な接続語の後の文

(イ)要約、結果系

「つまり、したがって、言い換えると、結果として、よって」などの語である。要約は前に示された文をわざわざ分かり易くしてくれているのだから主張であろう。要約の接続語は前後の分が同じ内容を、結果を示す接続語は前の文が原因、後の文が結果を表している。

(ロ)逆接、否定系

「しかし、が、にもかかわらず、ではなく、だけでなく」などの語である。前の文から当然予想される結果にならない場合に用いられる逆接は、接続語の中で最も主張が強く表れる部分の一つである。否定の接続語も同じく重要な事柄は後に来るので、注意しておこう。これらは前後の文が反対の関係になっている。

(ハ)比較、対比系

「よりも、むしろ、に比べて、一方で、反対に」などの語が該当する。わざわざ比較対象を引き合いに出してまで説明しているため筆者の主張が表されているといえる。対比に関しては、接続語の後の文だけでなく、前の文も問題として問われることがあるので注意しておこう。対比するキーワードが登場する場合も多いので注意。

(三)修飾語がなければ具体的な意味が確定しない単語、キーワード

「問題、観点、方法、概念」などの修飾語を伴わなければ意味をなさない語とその修飾語はチェックしておこう。「△という方法・観点」などは結果へたどり着くまでのプロセスとして問われることも多い。また、キーワードとは、定義された語や「△」で括られている語、重要フレーズの中でその単語を使わなければ意味が伝わらない語で、登場するたびに□で囲んでおくとよい。

(四)理由を示す文

「〜だから、〜ため、なぜなら、理由は…」など理由を示している文は筆者の主張を支える大切な根拠である。ある主張をするからにはそれなりの根拠がなければならないため、文章中でも重要な要素である。直接、理由を問う問題もあるので必ずチェックしておこう。

(五)その他強調されている文、重要フレーズと繋がる文、独特の構文を用いている文

(一)〜(四)の他にも「〜は重要である」「〜は必要である」「〜は…でなければならない」のように、文末が強調されている文。他にも「〜が可能になった」など、あるものが能力を有していたり、「〜になった」など変化が起こった記述は問題として問われやすいのでチェックしておこう。

また、重要フレーズの後の文などに「それが…」などの指示語や、「さらに…」など追加された場合も重要フレーズとして捉えられる。

箇条書きなどの独特な構文も筆者が分かりやすくまとめようとしている点で重要であろう。「一つは…、二つは…」「初めに…、次に…」「〜は三つある。…と…と…だ」などが該当する。また、近年では表現方法に関する問いも増えているので、演習の際に出会った表現はしっかりと覚えておこう。「確かに…しかし…」「一般的には…だが…」等の譲歩型の構文は近年のセンター試験でも何度も出題されている。

「―(ダッシュ)―」と呼ばれる長棒を使った表現も頻出。

(六)具体例

具体例はあくまで、筆者の主張の補助に過ぎない(重要フレーズではない)。よって傍線を引いて理解するのではなく、括弧をしておいて、主張の理解を助けるものとして読み進めていこう。「具体例を交えて答えなさい」など、指示されない限りは解答に含めないように注意しなければならない。また、その具体例が何の具体例なのかははっきりさせておこう。具体例の直前、直後にまとめられていることが多い。

以上、(一)から(五)までが重要フレーズである。多くの場合、重要フレーズの抽象度は高いため、理解するのが難しい。そこで具体例や、具体的な説明(重要フレーズでも具体例でもない部分)をしっかりと読んで理解を深めなければならない。「重要な箇所だけ読めば解ける」などと言う人もいるが、そのようなことができるなら誰も苦労しないし、筆者は長い文章を書く必要がない。重要フレーズを理解することは大切だが、他を蔑ろにせず読み進めていこう。

これにて重要フレーズの講義編は終了する。演習編へ進もう。

読解2 重要フレーズ演習

さて、前回は重要フレーズを紹介した。ここでは実際に文章へ傍線を引いていく作業を練習する。著作権の都合により一部しか掲載できません。問題は各自で入手して練習してください。

演習1 次の文章を読んで、重要フレーズに傍線を引きなさい。

著作権の都合により本文は未掲載

センター試験 2010 年度本試の評論の五段落目

「展開されることになった」まで

(センター試験 2010 本試 岩井克人「資本主義と『人間』」による)

手本1

各段落の線を引く部分の冒頭のみ紹介

《一段落目》

「一度目は・・・二度目は・・・三度目は・・・」

《二段落目》

「しかしながら実は・・・」 「だが、それがどのような・・・」 「ヴェニスの人」

《三段落目》

「ヴェニスの商人―それは、・・・」

「すなわち、**ヴェニスの商人**が体現している**商業資本主義**とは・・・」

《四段落目》

「だが、経済学という・・・」

《引用文・五段落目》

「ではなく、勃興しつつある・・・」 「それは、経済学における・・・」

いかがだったでしょうか。左のように傍線を引けていれば良い。実際の問題を見ればわかると思うが、傍線を引いたところが解答の根拠になっていることが多い。重要フレーズへ線を引く作業は最も重要な作業であるので怠らないようにしてほしい。

では、形式段落の読解へと移る。

読解3 形式段落の読解

では、読解ピラミッドの二段目「形式段落」について学習する。形式段落の読解は、重要フレーズを繋ぎ合せると概ね完成する、と思っていたかと分かりやすい。たとえば、前回行った演習の文章の一段落目の内容は「人間の自己愛が痛手を負ったのは三度あった」ということだ。さらに詳しい内容であれば「その三度は、地動説による天体宇宙、進化論による動物世界、無意識による心的世界、それぞれの中心からの追放」ということである。

さらに、第二段落は「もう一つの自己愛の傷を語るためにヴェニスの商人の話をする」という導入である。何も難しいことはなく、ただ傍線を引いたところをまとめてみるだけだ。まとめることに苦手意識を持っている人は「タイトルをつける」ようにしてみると上手くいくかもしれない。第一段落であれば「自己愛の三つの傷」とかなんとか。自分が小説家になった気分で段落にタイトルをつける(もちろん傍線を引いたところを踏まえて)ことが形式段落の読解になるのである。ただし、重要フレーズを理解しないままタイトルをつけていてもまったく意味がない。あくまで基本は重要フレーズであることを忘れないでほしい。

それでは、前回の演習で使った文章の各形式段落にタイトルをつけてみよう。

第一段落「自己愛の三度の傷」

第二段落「四つ目の傷の前提…ヴェニスの商人」

第三段落「商業資本主義の体現者ヴェニスの商人は差異を利潤にする」

第四段落「経済学はヴェニスの商人を抹殺して始まった」

第五段落「経済学は産業資本主義下の人間を中心とした」

このようになっていれば良いだろう。初めのうちはタイトルをいちいち書き出すのが良いと思うが、実際の試験で悠長にタイトルをつけている時間はないし、書き出す意味もない。ある程度、感覚がつかめたらタイトルは頭の中でつけて、読み進めていこう。

とても短い解説となったが、以上が形式段落の読解である。実際の試験中は「文章を読み進めること」「重要フレーズに傍線を引くこと」「傍線部を踏まえてタイトルをつけること」と三つ同時に作業することになるが、重要フレーズをしっかり理解してさえいれば、タイトルはついたよなものなので心配する必要はない。形式段落を意識するかしないかの違いだ。

それでは、大段落の読解へ移ろう。

読解4 大段落の読解

次は大段落の読解だ。大段落は形式段落を内容ごとに区切ったものだと考えてよい。前回行った形式段落の各タイトルは、

第一段落「自己愛の三度の傷」

第二段落「四つ目の傷の前提…ヴェニスの商人」

第三段落「商業資本主義の体現者ヴェニスの商人は差異を利潤にする」

第四段落「経済学はヴェニスの商人を抹殺して始まった」

第五段落「経済学は産業資本主義下の人間を中心とした」

であるが、第一段落が導入、第二・三段落がヴェニスの商人について、第四・五段落が人間中心の経済学について、と区切ることができそうである。今回は五段落までしかない短い文章だが、この後文章は「人間中心の考え」を掘り下げていくことになり、後半には資本主義の中心にはヴェニスの商人がおり、「人間」がいないことが明らかになる。このように形式段落につけたタイトルから場面を区切ることによって、文章全体の大まかな流れ(文章の構成)がわかる。そして、その文章の構成が問題として問われることがあるのだ。実際、この文章が出題された2010年も文章の構成の問題が出題されている。

以上が、大段落の読解である。大段落については、ただ内容を理解するのではなく、どのような構成で文章を書いているのかを意識することが大切である。多くの文章に触れて、練習に充ててほしい。

さて、いよいよ次は「文章の読解」と行きたいところだが、この時点で文章の読解は完成している。重要フレーズを具体例や説明部分から理解をし、各段落にタイトルをつけ、文章の構成を把握する。これが文章全体の読解と言える。少しネタバレをってしまったが、練習ということではセンター試験2010年本試に、重要フレーズの線引き、タイトル付け、最後に文章構成に関する問題(最後の問題)を解いて読解の授業を終わりにする。練習なのでタイトルは頭の中だけに留めず、書き出してほしい。

解答1

さて、ここからは解答の授業に入る。今までやってきた読解の話とは区別して聞いてほしい。一番始めにも述べたとおり、国語では母語であるがゆえに、厳密に手順を踏んで思考することを忘れがちである。今回は手順を踏むための第一段階、「問題分析」をしたいと思う。問題分析は、この問題が何を聞きたいのかを把握する作業である。聞き方によって次の2パターンに大別できる。

- 一、「どういうことか」パターン
- 二、「なぜか」パターン

さらにこの二つを指定された傍線部の性質に応じて、2パターンずつ分類できる。

- 一、「どういうことか」言い換えパターン
- 二、「どういうことか」比喩・逆説パターン
- 三、「なぜか」背景・性質パターン
- 四、「なぜか」原因・結果パターン

それでは、これら4パターンの分類方法と簡単な解答方針を紹介する。

「どういうことか」言い換えパターン

もともとオースドックスなパターンである。傍線部全体(主語と述語の関係)が比喩表現でなく、逆説的な表現でもない時、このパターンとなる。キーワードが含まれていることが大変多い。詳しくは次の章で述べるが、傍線部の言い換え部分を本文中より見つけ出せば、解答になる問題である。

例)「経済学は、まさにこのヴェニスの商人を抹殺することから始まった」とあるが、どう
いうことか。(センター2010本試)

「ヴェニスの商人」は比喩表現でないのか、という意見もあるかと思うが、術語ではなく修飾語であるし、傍線部以前に定義づけされているキーワードとしてとらえる。よって、「どういうことか」言い換えパターン。

「どういうことか」比喩・逆説パターン

傍線部全体が比喩表現であったり、逆説的な表現であれば、このパターン。出題者の意図としては「なぜこのような表現が可能であるか」ということを聞きたいのである。

例)「コミュニケーションそのものがキャラになっている」とあるが、どういうことか。
(北海道大学 2010)

「コミュニケーション」と「キャラ」は一般的には同義ではない。つまり、比喩表現と解することができるとは、「どういうことか」比喩・逆説パターンである。一見矛盾する二つの言葉(逆説パターン)では矛盾箇所の性質の共通点を本文中より見つけ出すことで解答とすることができる。

「なぜか」背景・性質パターン

傍線部の事柄の理由を説明する際に、その事柄の背景や性質から説明するパターンである。たとえば「Aがピーマンを嫌うのはなぜか」と聞かれたとき、「ピーマン」の「嫌われる」性質、またはAがピーマンを嫌うに至った背景を説明すればよいのである。前者であれば「苦いから」、後者であれば「以前に食べ過ぎてしまったから」などとなる。本文中に、傍線部で問われている事柄の性質が多く書かれていた場合、このような方針を立てればスムーズに解答を進められる。また、前項のパターンと問題の性質的にはかなり似ている。

例)「コミュニケーションそのものがキヤラになっている」とあるが、このように言えるのはなぜか。(北海道大学 2010 改)

このように後半の文言を変えただけで聞かれていることは同じである。コミュニケーションとキヤラに共通する性質をまとめればよい。

「なぜか」原因・結果パターン

傍線部の事柄の理由を説明する際に、その事柄の結果から逆算して説明するパターンである。たとえば「この政策が廃案になったのはなぜか」と聞かれたときに、この政策を実行した結果どのようなことが起こるかを説明すればよいのである。この場合だと「国民からの反発が強かったから」などとなる。この問題パターンは経済学部や経営学部、商学部の問題で多く出題される傾向にあるので、これらの学部を指している人は押えておきたい。そのほかの学部を指す人もセンター試験等で経済がテーマの時は注意しておきたい。

以上、四つのパターンと、その簡単な解答方針を説明した。次の章では、パターンに関係なく、解答にかかわる重要事項を説明する。パターンが分からなくても、重要事項さえ押さえておけば解ける問題も存在するので、必ずマスターしてもらいたい。

解答2

次はすべての問題パターンに共通して言える事項について説明する。解答を作成するうえで最も重要な要素なので注意してほしい。

(一)傍線部を含む一文を読解する

問題を解く際、傍線部をしつかりと把握することは前回学んだところだが、傍線部のみを理解しただけでは不十分である。文の一部だけを取り出しただけでは、前後の文脈を踏まえられていないからである。問題を解くうえでも、傍線部を含んでいる一文にはたくさんの情報が詰まっている。傍線部に差し掛かったら傍線部を含む一文に線を引いておこう。次に傍線部の前後に登場する重要な語を紹介する。必ずチェックするようにしよう。

(イ)指示語

指示語は最も試験に問われやすい語である。直接指示語の内容を問われた場合のみならず、傍線部を含む一文に指示語があるならば必ず内容を明らかにしなければならない。次の例を見てみよう。

予約を組んで行う検査において、具体的な時間は指定せずに、依頼者側からの連絡（コール）によって検査を開始する、特別な予約枠がある。それがオンコールだ。

問、傍線部「オンコール」とあるが、それはいったいなにか。

さて、右の問題では傍線部「オンコール」の内容を問われている。前回の問題パターンに従えば、「どういうことか」言い換えパターンであるので、「オンコール」の説明が書かれている箇所を文章全体から探し、解答を作成ことになる。しかし、傍線部を含む一文をみると「それがオンコール」とあるので、指示語の内容、つまり直前を見ればよいことが分かる。よって解答は「予約を組んで行う検査において、具体的な時間は指定せずに、依頼者側からの連絡（コール）によって検査を開始する、特別な予約枠のこと。」となる。このように、当てもなくキーワードを探すより簡単に解答にたどり着ける場合がある。(ロ)もそのような語なのでしっかりみておこう。

(ロ)要約・言い換えの接続語

読解編でも触れた語である。「つまり、言い換えると」などであるが、これらは「前の文で言ったことを、言葉を変えてもう一度言います」と宣言する語なのだから、傍線部の直前にあれば、必ずチェックしなければならない。例を見てみよう。

予約を組んで行う検査において、具体的な時間は指定せずに、依頼者側からの連絡（コール）によって検査を開始する、特別な予約枠がある。それがオンコールだ。オンコール体制、つまり、呼べばすぐ来る体制をとっておけば、患者の命を救う確率が上がるのである。

問、傍線部「呼べばすぐ来る体制」とは、どのような体制か。五十字以上で答えよ

右の問題における傍線部は「呼べばすぐ来る体制」であるが、傍線部を含む一文を見てみると、傍線部の直前に「つまり」がある。そして「つまり」の直前には「オンコール体制」があることから、「呼べばすぐ来る体制」とは「オンコール体制」だということが分かる。よって、答えは「オンコール体制」と行きたいところだが、⁵⁰0字以上という制限があるので、「オンコール」をさらに言い換えなければならない。ただ、オンコールについては先ほどの問題で説明済みなので、1行目と2行目であることは明らかであろう。したがって、解答としては「予約を組んで行う検査において、具体的な時間は指定せずに、依頼者側からの連絡によって検査を開始する予約枠を設ける体制。(58)」のようになる。

以上が、傍線部を含む一文で注意すべき点である。傍線部を含む一文に、これらの語がなかったとしても、文脈をとらえるために必ずチェックしよう。

(二)過不足なく答える

君が昨日の夜「鳥のから揚げ、サラダ、味噌汁、たくあん、白米」を食べたでしょう。そこで友人に「昨日の夜なに食べた？全部おしえて！」と聞かれたら、何と答えるだろう。普通は「鳥のから揚げと、サラダと、味噌汁と、たくあんと、白米だよ」と答えるだろう。一つでも言い逃したら、「昨晩食べたもの全部」ではなくなくなってしまおうし、食べていないもの言ったら、嘘つきになってしまおう。現代文においても同じである。重要なことが抜けていれば減点だし、余計なものがあっても減点である。聞かれたことに対して過不足なく答える姿勢を崩さぬよう注意を払おう。

(三)抽象度を統一する

君が昨日の夜「鳥のから揚げ、サラダ、味噌汁、たくあん、白米」を食べたでしょう。そこで友人に「昨日の夜なに食べた？全部おしえて！」と聞かれたら、何と答えるだろう。普通は「鳥のから揚げと、サラダと、味噌汁と、たくあんと、白米だよ」と答えるだろう。「食用に品種改良された鶏であるブロイラーを屠殺後、解体、下処理を加えた後で、タレに漬け、小麦粉や片栗粉をまぶして油で揚げたものと、生野菜もしくは茹でた野菜をドレッシングやマヨネーズをかけて食べる料理と、大豆を発酵…」などとやけに詳しく説明する人はいないだろう。逆に「夕飯！」と答えるだけでは単純すぎる。このように適切な抽象度で解答しなければ、適切な解答とは言えない。読解のとき、具体例は括弧でくくっておけ、と言ったのはこのためだ。具体例以外にも比喩を用いるのはよろしくない。一般的な表現で、具体例や過度な抽象表現を用いずに解答しなければならないのである。

(四)数学で学んだことを生かせ

四つ目は、なかなか初めのうちは難しいかもしれないが説明する。「Aは自然数である。自然数は整数である。よってAは整数である。」これは三段論法というものである。

A \parallel B, B \parallel CのときA \parallel Cである。このような表現があつて、Cの説明をしたとき、たとえ「指示語」や「言い換えの接続語」がなかったとしても、AやBは重大なヒント、もしくは解答の成分になる。数学の証明で培った力を国語で生かそう。

また、「正義は勝つ」という言葉を説明したいとき、「正義」や「勝利」という言葉をいくら探しても文章中から見つからない時がある。そのような時は「対偶」をとってみよう。「正義は勝つ」の対偶は「勝たないのは正義ではない」「負けるのは悪」である。このように対偶をとることで新たなキーワード「負け」「悪」が登場した。対偶をとることで道が開けることは非常に多い。ヒントが少ないと思つたら試してみるのが良いだろう。対偶を使いこなすためにも「対義語」は日頃から意識するようにしよう。

以上、四項目が解答一般における重要事項である。最初は意識することが多くて大変かもしれないが、過去問や模試での演習を通して、常に意識できるように努力しよう。

今回は、いよいよ手順をしつかり踏んで解答することを学ぶ。

解答3

いよいよ解答編の最後の章に入る。最後は実際に解答を作るときの手順について説明する。大まかな流れを箇条書きにするのでよく読んでほしい。

- 1、問題パターンを把握する
 - 2、傍線部を含む一文をチェックする(指示語、接続語など)
 - 3、解答の主語と述語を作る(解答の核を作る)
 - 4、修飾語を補う
 - 5、不必要な語の削除、表現の一般化を行う
- 以上、5つのステップを踏んで解答を作成することとする。これだけ示されてもよくわからないと思うので、毎度おなじみ2010年度センター試験本試を用いて実際の手順を見ることとする。

著作権の都合により未掲載

問2を「選択肢を見ずに」記述して解答してください。

(センター試験2010本試 岩井克人「資本主義と『人間』」による)

問、傍線部「経済学という学問は…出発した」とあるが、どういうことか。

では、まずこの問題の解答を作ってほしい。今まで通りのやり方で構わない。書き終わったら次のページへ進もう。

いかがだったであろうか。それでは、実際に手順を踏んで解説していく。自分が実際に解いているような感覚で読み進めてほしい。

1、問題パターン分析

「どういうことか」と問われており、比喻表現が述語にない(文全体では比喻ではない)ことから、「どういうことか」言い換えパターンであることがわかる。よって、傍線部の語を言い換えていけばよい。

2、傍線部を含む一文チェック

傍線部を含む一文を見ると「だが」が含まれていることがわかる。しかし、「だが」は逆接であるので、言い換えるために必要な情報は教えてくれなさそうである。もし、「つまり」「言い換えると」「それは」などがあれば、大きなヒントだったが、今回は傍線部を含む一文にヒントはなかった。

3、解答の主語と述語を作る

今回は「言い換え」を求められているので、解答の主語と述語は、傍線部の主語と述語を適切に言い換えた部分となる。よってまずは、傍線部の主語「経済学」という学問は「と述語「出発した」の言い換えから考えてみよう。

まず主語についてだが、本問の趣旨はキーワードである「ヴェニスの商人」の「抹殺」の内容を説明することなので、「経済学」という学問について言及する必要はない。よって主語はこのままでよい。本問はキーワードである「ヴェニスの商人」と、「抹殺」の意を問う問題である。

次に述語「出発した」を考える。このままでもよいが、より一般的な表現の「始まった」程度にしておこう。

4、修飾語を補う

では、残された修飾語「このヴェニスの商人を抹殺することから」を言い換えていこう。「このヴェニスの商人」は指示語が含まれているので傍線部より前を見ればよい。「ヴェニスの商人とは：商業資本主義の体現者」「ヴェニスの商人が体現している商業資本主義とは、地理的に離れたふたつの国のあいだの価格の差異を媒介して利潤を生み出す方法」をまとめれば良さそうだ。いずれも重要フレーズである。「抹殺」は「消し去ること、存在を認めずに見無視すること」と、辞書的意味で処理すればよい。

ここまでできれば今は十分だが、もう一步踏み込んでみよう。商業資本主義の方法を消し去るということは、代わりの何かが必要になる。この代わりになるものを説明しなければ不足になってしまう。ということ、代わりになるものを傍線部以降から探すと、「商業資本的活動にはなく、：労働する人間に見いだした」「経済学は「人間」を中心として展開」などがある。これらをまとめて「始まった」の修飾語としよう。

修飾語を補う作業は「傍線部の修飾語の言い換え」「不足している目的語や補語の補完」「重要な根拠となる部分の挿入」などがある。一番長い作業になるので集中して行おう。

5、不必要な語の削除、表現の一般化

ここまでの解答をただ繋ぎ合せると「経済学という学問は、地理的に離れた二つの国のあいだの価格の差異を媒介して利潤を生む出す商業資本主義の方法の存在を認めずは無視し、産業資本主義の下で汗水たらして労働する人間に価値を見いだすことから始まったということ。」となる。ところどころ(網掛け部分)に具体的な表現があるので、削除、一般化している。「地理的に…」は貿易の具体例に即した表現であり、「利潤は差異から生まれている」という表現もあるので削除できる。抹殺を辞書通りに書いた「存在を…」は、より一般的に「無視」「否定」「止め」などに言い換えられる。「産業資本主義…」は人間が汗を垂らしている描写は全くいらぬ。

以上より、解答は「経済学という学問は、差異を媒介にして利潤を生み出す商業資本主義の方法を無視し、労働する人間に価値を見いだすことから始まった。」となる。

以上で解答編ならびに「現代文の基礎」をの講義を終了する。ここまでの内容をよく理解し、演習を積みめば力はつくであろう。しかし、なかなか文が理解できなかつたり、うまく解答を進められないことも多い。そのような時は、遠慮なく私や他のマナビーの講師に質問してほしい。